



安全安心に暮らせるまちづくりの推進

合志市の現状と取り組み 【防災・消防団】

- 1 合志市の災害リスク(近年の被害状況)
- 2 消防団の現状と取り組み
- 3 合志市の防災への取り組み

令和6年12月19日(木)

安 全 安 心 課

1 合志市の災害リスク(近年の被害状況)

★ 熊本地震（平成28年4月14日：震度5強、4月16日：震度6強）

避難状況：避難所開設27か所（最大4/17）6,629人 （のべ）30,027人

被害状況：【人的被害】**死者7人**（関連死）、重傷者27人、軽傷者56人

【住家被害】全壊47棟、半壊862棟、一部破損7,075棟



須屋支所被害状況



高速道路側道 被害状況



日吉神社石塔倒壊状況

★ 台風10号（令和2年9月6日）

避難状況：11か所 1,085人

被害状況：倒木、ガラス破損数か所

★ 大雨（土砂災害警戒情報発表）（令和5年7月3日）

24時間雨量：約230mm、最大雨量（60分）：76mm

被害状況：道路冠水、法面崩落、土砂崩れ



【参考】南海トラフ地震

想定では**東日本大震災以上**の
極めて甚大な被害を及ぼす

おおむね100～150年間隔で繰り返し発生
今後**30年以内**に発生する確率が**70～80%**

【地域への影響】

- 静岡県から宮崎県にかけての一部で**震度7**、広い範囲で**震度6強～6弱**
- 関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に**10mを超える大津波**

熊本県への影響

・最大震度6弱

【参考】想定される各地の震度

震度6弱 宇城市、阿蘇市、高森町、山都町、多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町

震度5強 熊本市、八代市、人吉市、水俣市、玉名市、山鹿市、菊池市、宇土市、上天草市、天草市、**合志市**、美里町、長洲町、和水町、大津町、菊陽町、南小国町、小国町、産山村、西原村、南阿蘇村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、氷川町、芦北町、津奈木町、錦町、相良村、五木村、山江村、球磨村

震度5弱 荒尾市、玉東町、南関町、苓北町

2 消防団の現状と取り組み

合志市火災発生状況

区分	件数	
	R5	R6 (12/1現在)
林野火災	6	0
枯草火災	2	3
車両火災	4	1
建物火災	5	2
その他火災	4	0
計	21	6
誤報	4	3



栄【車両火災】



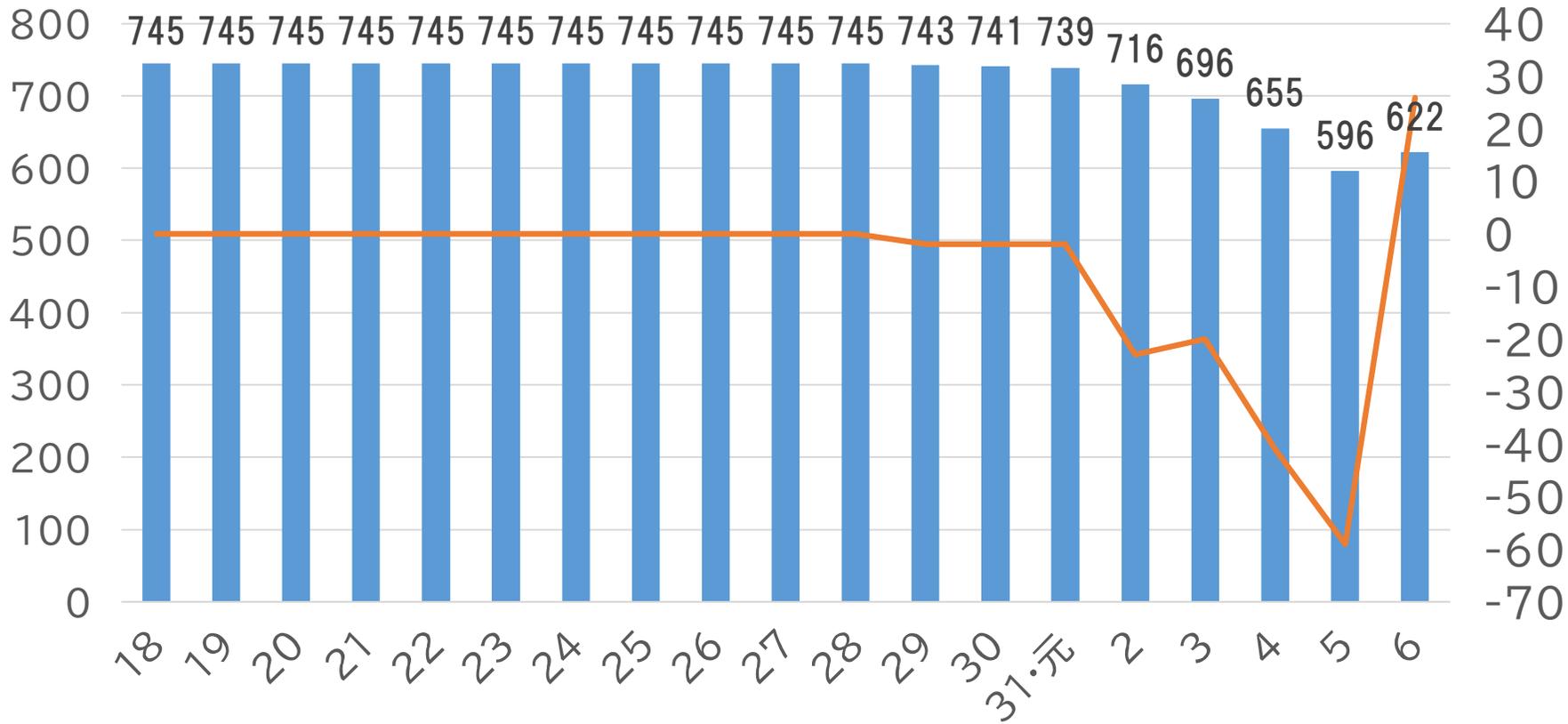
上庄【建物火災】



須屋【建物火災】

消防団員数推移

凡例
■ 団員数
 (4/1現在)
— 対前年比



団員数の現状

- **平成29年から徐々に減少、令和5年に急激に減少(-59名)**
 ⇒【減少の要因】
 コロナ禍もあり勧誘活動が出来なかったことや区との関係性が影響している。
 また、令和5年度に報酬の個人振り込みに切り替わるため、活動歴のない団員の整理を行ったため
- 令和6年にやや増加(+26名)
 ⇒①勧誘の再開、及び消防団幹部での細かな人数調整を実施
 ②機能別団員制度の導入

消防団の編成及び所属人員

分 団	部	班	地区名	人員	総数	分 団	部	班	地区名	人員	総数	
1分団		1	班 出 分	6	35	9分団	1	1	班 東	13	38	
		2	班 新 古 閑	0				2	班 湯ノ端	7		
		3	班 上 古 閑	12				3	班 外 園	5		
		4	班 御 領	12				4	班 中 尾	5		
		5	班 野 付	5				5	班 灰 塚	8		
2分団		1	班 日 向	11	46	10分団	1	1	班 北	11	44	
		2	班 上 町	13				2	班 本 村	13		
		3	班 下 町	11				3	班 辻	11		
		4	班 横 町	11				4	班 城	4		
		5	班 新 迫	0				5	班 上 生	4		
3分団		1	班 幾 久 富	21	21	11分団	1	1	班 大 池	17	61	
4分団	1	班 上 庄 上	14	33	2		2	班 若 原	21			
	2	班 上 庄 下	19		3		班 御 代 志	23				
5分団		1	班 原 口	26	34	12分団	1	1	班 新 開	21	45	
		2	班 原 口 下	8				2	班 黒石団地	8		
6分団		1	班 平 島	16	32	13分団	2	3	班 黒 石	4	53	
		2	班 鹿 水	8				4	班 木 原 野	12		
		3	班 中 林	0				1	1	班 須 屋		21
		4	班 後 川 辺	8					2	班 上 須 屋		21
7分団	1	1	班 生 坪	7	30	14分団		1	班 南群・上群	16	49	
		2	班 弘 生	10				2	班 下 群	15		
	2	3	班 江 良	9				3	班 黒 石 原	18		
		4	班 高 木	4								
8分団	1	1	班 辻 久 保	8	14	本部 機動隊		1	班 合志	39	83	
		2	班 小 合 志	0				2	班 西合志			
	2	3	班 立 割	6				3	班 女性団員			44
		4	班 黒 松	0								
実員数:										622名		

編成上の現状

- 北部地域の消防団員の減少が大きい
- 機能別団員14名含む(上生、城、湯之端)

消防団の主な活動状況

【火災・災害対応】



消火活動補助



災害時地域活動(台風)



災害時地域活動(地震)

【訓練・行事等】



出初式



春季訓練



夏季訓練



総合防災訓練



火災予防パレード



救急救命講習

消防団の現状と課題、今後の方向性

現 状 ⇒問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 団員の減少(745名⇒622名 平成28年から123名減少) ⇒①消防団に限らず若者の地域離れが増大(区への加入や消防団の加入等) ②行事や訓練など、災害対応のほかに拘束されることが多い ③仕事の関係上、行事・訓練、災害対応への出動が思うようにできない。 (消防団員として貢献できない。) ● 団員のいない行政区の存在 ⇒初動対応が遅れるおそれ、住民の不安感増大 ● 個人支給以前は、個人報酬を分団費として使用し備品等購入 ⇒個人支給となったため、分団での運営費が減少(補助金のみでは、現状赤字)
課 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団の魅力を内外に発信し、退団者を抑制するとともに、団員を獲得するか 2 団員のいない行政区をいかにカバーしていくか 3 消防団運営をいかに充実させるか
今後の 方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 退団者の抑制と団員獲得のための魅力化施策の実施と情報発信 (充実感) <ul style="list-style-type: none"> ① 装備品の充実や消防団アプリの導入など魅力化施策を推進 ② 広報誌、ホームページ、SNS等を活用した適宜の情報発信 2 行事等への参加など負担を軽減した機能別団員の拡充及び防災士や自主防災組織との連携強化 3 機材等の維持管理を含め消防団活動に支障をきたさないよう補助金の増額を検討

3 合志市の防災への取り組み

区分	概要等
自助の促進・ 共助力の向上	① 地区防災計画の策定支援及び自主防災組織の設立、運営支援 ② 防災士の養成 ③ 合志市防災士連絡協議会の運営 ④ 合志市防災組織連携連絡会の開催
共助力の向上・ 公助体制の 充実・強化	⑤ 【令和6年度】防災訓練の実施 ・合志市総合防災訓練の実施 （関係機関・団体、地域との連携） ・熊本県が実施する豪雨対応訓練への参加

① 地区防災計画の策定支援及び自主防災組織の設立、運営支援

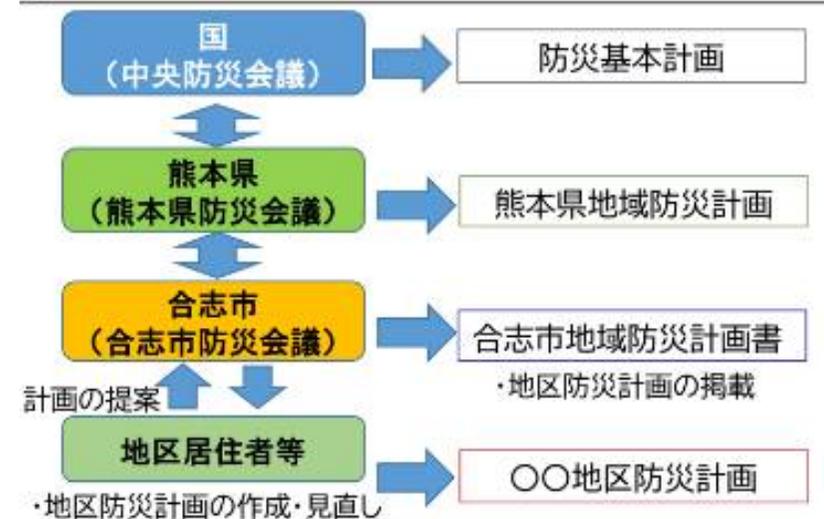
1、地区防災計画の策定支援

自分たちが生活する地区の住民の「**命を守る**」ため、地区の統制や想定される災害に応じて、平時の防災活動や災害時の行動を「**地区のみみんなで考え、話し合いながらつくる計画**」です。

合志市では、各行政区に担当職員を配置し、計画の策定支援を行っています。

【計画の策定状況】

行政区85区を母数とした場合：83/85地区が設立（**97.6%**）
※未設立：そのまち、桑木鶴団地



2、自主防災組織の設立、運営支援

合志市では、行政区を単位として組織されている自主防災組織の設立及び運営支援を行っています。

【設立支援】

市職員による運営規定の作成支援や活動内容に関する助言等、自主防災組織を設立するための支援を行っています。

【自主防災組織活動に伴う費用の補助】

合志市では、自主防災組織設立に係る経費や活動に伴う経費を補助金で支援しています。

●合志市自主防災組織補助金

対象経費：自主防災組織が行う事業（防災訓練、防災知識の啓発、防災用資機材の整備充実）に要する経費

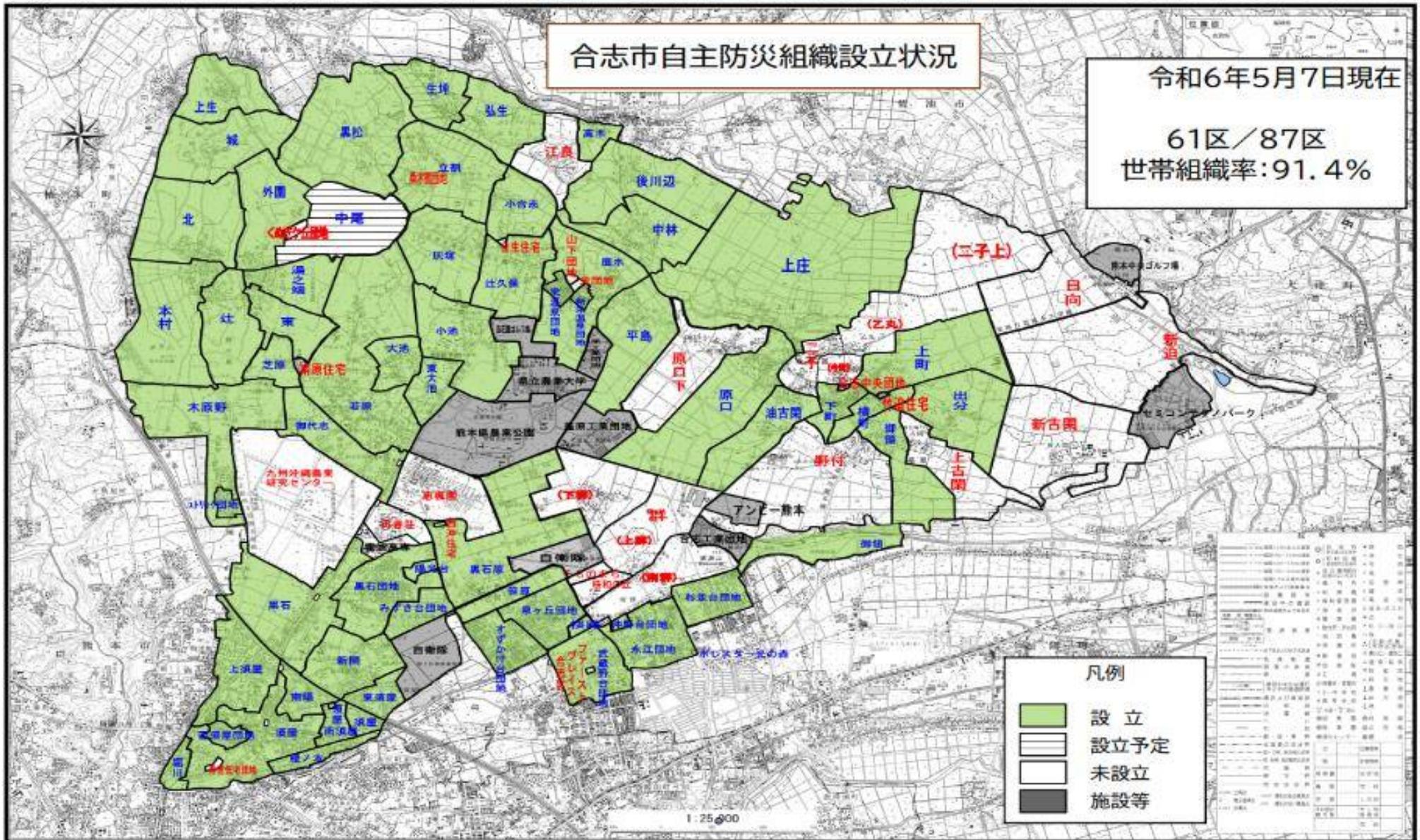
補助額：①活動費 1組織につき、4万円

②新規設立費 1組織につき、5万円

合志市自主防災組織設立状況

令和6年5月7日現在

61区/87区
世帯組織率:91.4%



【自主防災組織に期待される役割】

地域において「共助」の中核をなす組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動が期待されます。

(1) 平常時においては

計画の作成や防災知識の普及・啓発、危険個所の点検、避難訓練、防災資器材の整備などにより、地域防災力の向上を図ります。

(2) 災害時においては

地域住民の安否確認、避難の呼びかけ、避難所への避難誘導、炊き出しや避難所運営等があります。

② 防災士の養成

防災士制度とは

2003年、阪神淡路大震災を教訓として「人」という資源を活用して社会全体の防災力を高めるために生まれました。

防災士は、日ごろから防災について十分な意識と一定の知識・技能を持ち防災リーダーとして、総合的な防災力向上の中心となって活動することが期待されています。

資格を得るためには、3日間の養成講座を受講し、防災士機構の認証が必要です。

全国の防災士は、296,214名（令和6年9月末現在）

合志市の取組

【防災士養成講座の開催】

毎年、2市2町（菊池市・合志市・菊陽町・大津町）合同で『防災士養成講座』を開催し、防災士の養成を行っています。

今年度は菊池市で開催し、養成講座を受講した市民31名が試験に合格し、防災士として登録されました。

【防災士資格取得費用の補助】

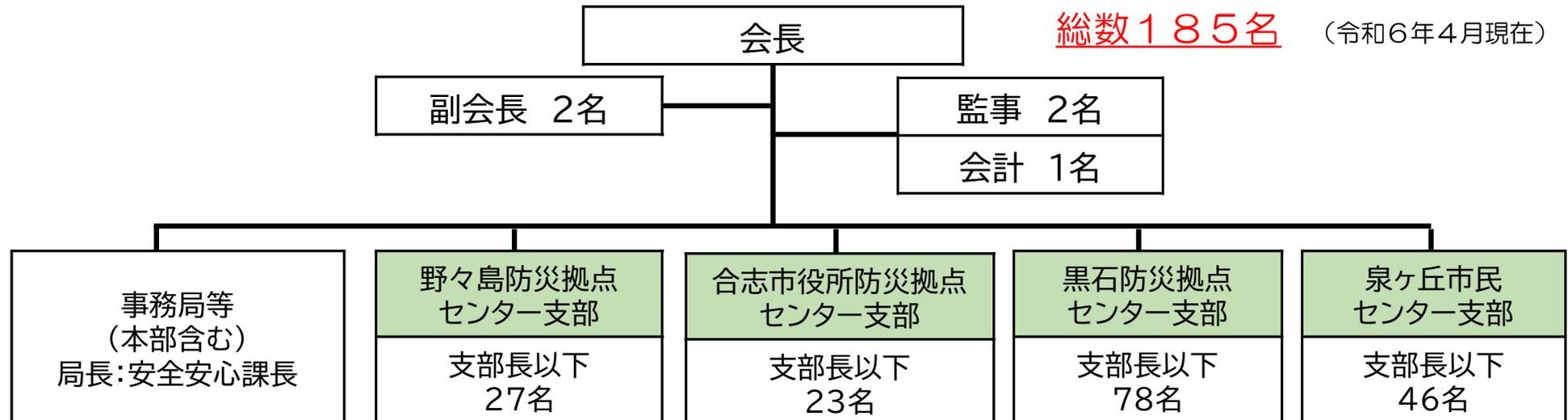
合志市防災士連絡協議会に入会した防災士に対して、防災士資格を取得する際に係る経費の全額を補助しています。（教本代、受験料、登録料）



③ 防災士連絡協議会の概要

目的	協議会は、防災士相互の連携を図り、 防災に必要な知識、技能等を高め、地区の自主防災組織をはじめ合志市全体の防災力の向上に寄与 することを目的とする。
構成	防災士の資格を得て合志市に在住、または勤務する者で、協議会の目的に賛同する者
主な事業	<ol style="list-style-type: none"> 1 会員の防災に関する知識、技能の向上及び意識の高揚に関する事業 2 市及び自主防災組織等の防災力向上に関する事業 3 会員相互の情報交換・連携に関する事業 4 合志市防災士連絡協議会運営補助金交付に関する事業 5 その他、協議会の目的を達するために必要な事業

編成



主な活動

- 1 総会:定期総会(年1回開催)、臨時総会(会長が招集)
- 2 役員会:必要の都度
- 3 防災訓練等への参加(豪雨対応訓練、総合防災訓練、地区の計画する防災訓練など)
- 4 各支部の訓練・会議等の実施
- 5 その他:研修等

合志市防災士配置状況

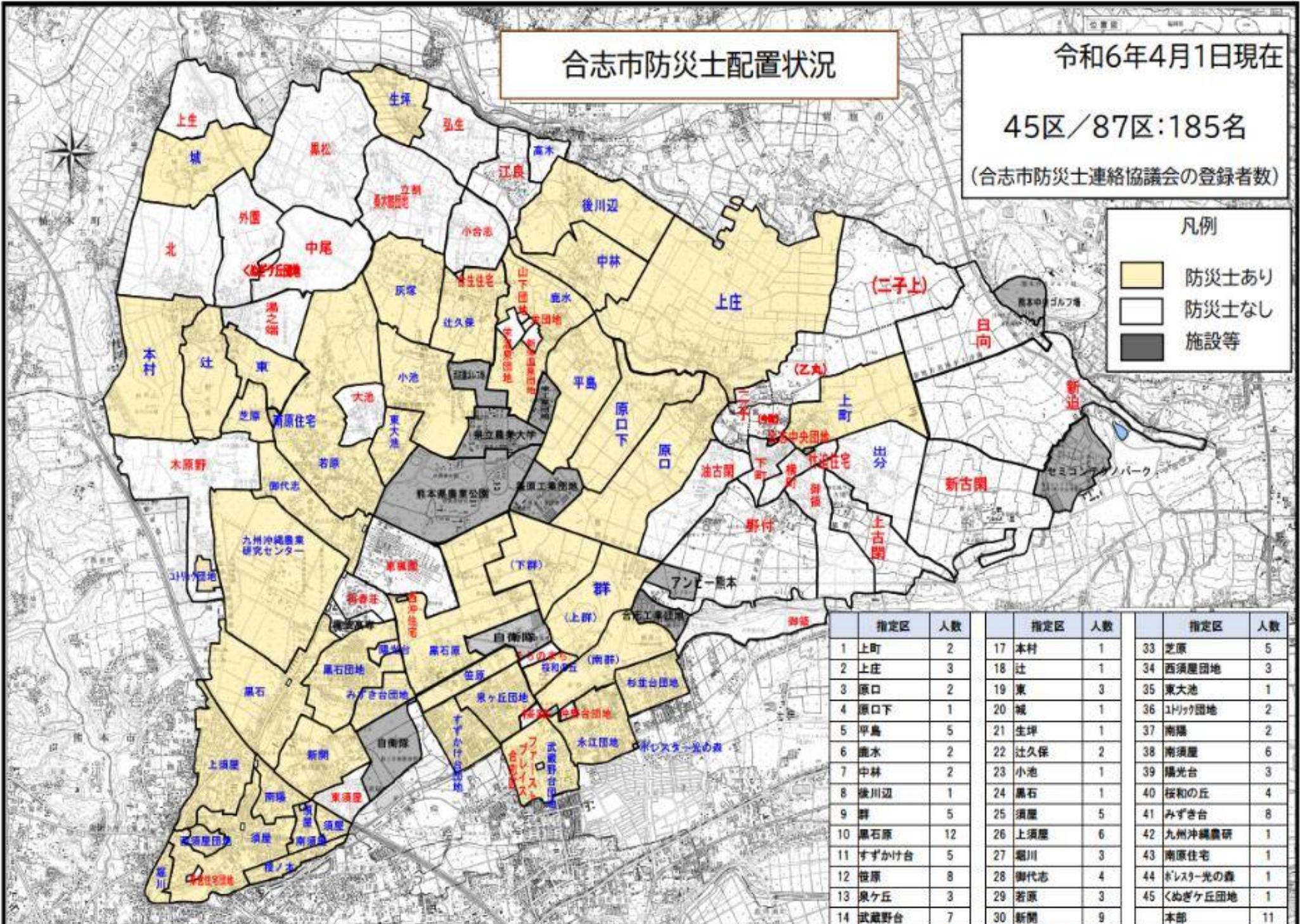
令和6年4月1日現在

45区/87区:185名

(合志市防災士連絡協議会の登録者数)

凡例

- 防災士あり
- 防災士なし
- 施設等



指定区	人数	指定区	人数	指定区	人数
1 上町	2	17 本村	1	33 芝原	5
2 上庄	3	18 辻	1	34 西須屋団地	3
3 原口	2	19 東	3	35 東大池	1
4 原口下	1	20 城	1	36 山ノ下団地	2
5 平島	5	21 生坪	1	37 南陽	2
6 鹿水	2	22 辻久保	2	38 南須屋	6
7 中林	2	23 小池	1	39 陽光台	3
8 後川辺	1	24 黒石	1	40 桜和の丘	4
9 群	5	25 須屋	5	41 みずき台	8
10 黒石原	12	26 上須屋	6	42 九州沖縄農業研	1
11 すぎかけ台	5	27 堀川	3	43 南原住宅	1
12 世原	8	28 御代志	4	44 ドレスラー光の森	1
13 泉ヶ丘	3	29 若原	3	45 くぬぎヶ丘団地	1
14 武蔵野台	7	30 新開	9		
15 永江団地	13	31 黒石団地	7	計	185

令和6年度 横町、野付、沖野台、東須屋に新配置予定

合志市防災士連絡協議会の活動状況①



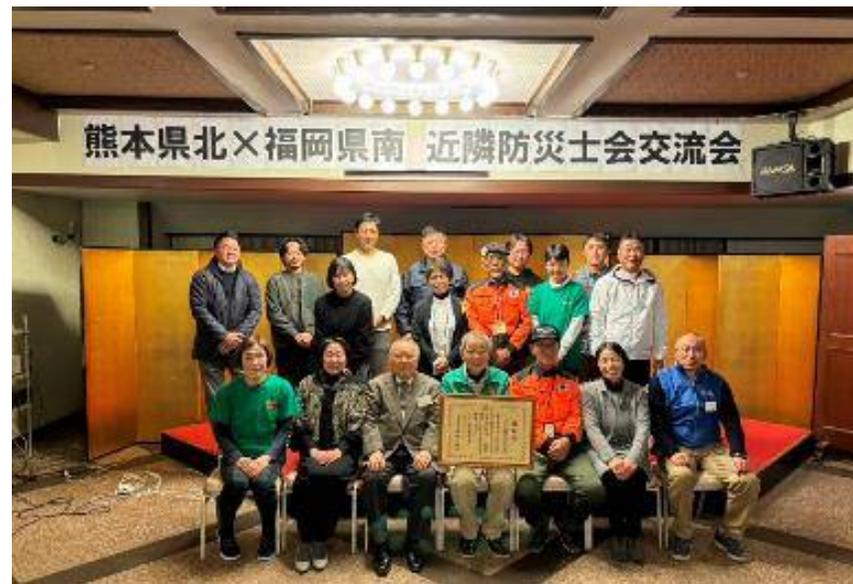
定期総会



【役員研修】熊本地震震災ミュージアム研修



【支部訓練】訓練模様(マンホールトイレの組立)



【熊本県北×福岡県南近隣防災士会】交流会

合志市防災士連絡協議会の活動状況②



【球磨村研修】球磨村防災対策監による講話



【球磨村研修】被害状況(茶屋地区)の現地説明



【子ども大学こうし】アドバイスをする防災士



【子ども大学こうし】認定書を授与する高山会長

合志市防災士連絡協議会の現状と課題、今後の方向性

<p>現 状 ⇒問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在185名(男性151名、女性34名、平均年齢54歳) (R6新規入会者後、男性170名、女性46名、平均年齢56歳) ⇒行政区によって偏りがある。 防災士が1人もいない行政区:42区(R6新規加入後 38区) ● 防災士資格取得後の組織としての訓練等不十分 ⇒知識・技能の低下が懸念、また個人が保有する専門的な知識・技能の活用不十分 ● 令和2年度から地域ごとに4つの支部を設立(現体制)し、支部長を核心として連絡体制を確立し、訓練・研修等を計画・実施 ⇒① 訓練等実施にあたっての人材不足 ② 市の特性に応じた訓練プログラム未整備
<p>課 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 組織をいかに充実させていくか(行政区ごと1名以上を目標、特技の活用) 2 組織として防災士をいかに育成していくか(知識・技能・意識の向上) 3 防災士をいかに運用していくか(市及び地区との連携)
<p>今後の 方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災士の養成と意識の向上 ⇒①来年度防災士養成講座開催の周知 ②会員への情報提供・収集体制の確立(講座や研修、イベントなどの周知) 2 支部等の訓練体制の確立 ⇒①指導者となり得るSP防災士の育成(本年度プロジェクト開始) ②訓練プログラムの作成(令和6年度作成・検証中) 3 地区の防災訓練等への参加 ⇒区長との連携強化(防災士名簿の提供)

④ 合志市防災組織連携連絡会の開催

目的	1 防災組織連携連絡会を行い顔が見える関係を構築する。 2 災害時には自助、共助の中心として活動できる自主防災組織及び防災士を養成する。		
開催基準	年1回 半日を予定		
参加対象者	自主防災組織代表者 自主防災組織未設置行政区長 合志市防災士連絡協議会 合志市消防団 幹部 など		
実施状況	日時	実施の概要	参加者数
	R5.9.10 (日)	① 講義「熊本地震オペレーションからの教訓」 講師:熊本県危機管理防災特別顧問 有浦氏 ② 合志市の取り組み 説明:安全安心課 防災対策監	115名
	R6.9.15 (日)	① 講義「女性目線の安心術」 講師:防災・安心プランナー「柳原志保」氏 ② 合志市地域防災計画の概要説明 説明:安全安心課 防災対策監	120名



R5有浦氏の講義



R6しほママの講義



⑤ 令和6年度 防災訓練の実施

考え方	<p>「自分達の地域は自分達で守る」機運の醸成をコンセプトとして企画・実行</p> <p>1 豪雨対応訓練(図上訓練)への充実 職員移動に伴うシステム入力及びマニュアルを活用した訓練</p> <p>2 総合防災訓練は豪雨対応訓練(図上訓練)の延長として実動訓練の実施 訓練開催地域(黒石コミュニティ)と避難所運営(楓の森小・中避難所)</p>			
区分	実施時期	目的	実施項目	
① 熊本県豪雨 対応訓練 (災害対応 図上訓練)	4月24日 (水)	<p>出水期を前に、災害対策本部班に対し、風水害における災害対応の基本的な手順を訓練し、豪雨対応能力の向上を図る。</p> <p>⇒ 関係機関との情報共有の迅速化</p> <p>⇒ 本部室内(土木班・広報班・連絡調整班)の災害対応要領の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県との連携 ○ 防災情報に関する配信要領 ○ 被害状況の把握要領 ○ 避難所運営訓練 (避難者数入力) ○ 被害情報対応記録システムの運営 	
② 合志市総合 防災訓練	10月20日 (日)	<p>合志市及び防災関係機関並びに地域住民が一体となって実効性のある総合防災訓練を実施し、防災体制の確立を図り、関係機関の連携強化や即時対応能力、技術の更なる向上を図る。</p> <p>⇒ 黒石コミュニティと楓の森小・中校区との防災上の連携(避難所運営・体験訓練)</p> <p>⇒ ペット避難要領の提示(展示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模地震による大規模火災を想定 ○ 災害対策本部の開設・運営 ○ 情報の伝達・共有 ○ 地区との連携 (黒石コミュニティ、楓の森校区) ○ 福祉避難所の開設・運営 ○ 社会福祉協議会との連携 ○ 自衛隊との移送連携 	

(黒石防災拠点センター)



避難者受入れ(受付)



テントの展張訓練



段ボールベッド作成訓練

(楓の森小中学校)



受付準備



避難者受入れ(受付)



テントの設置

指定福祉避難所開設・運営訓練

(ふれあい館)



準備ミーティング



市との調整



福祉車両による搬送



自衛隊車両による輸送



市職員による受付



社協職員による間取り

体験訓練

(黒石防災拠点センター)



マンホールトイレ組立



防災井戸体験



かまどベンチ組立

(楓の森小中学校)



応急手当



煙体験



水消火器体験

装備品展示(楓の森小中学校)

